慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	昭和廿一年度秋期金澤文庫見學報告
Sub Title	
Author	中村, 秀男(Nakamura, Hideo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1948
Jtitle	史学 Vol.23, No.1 (1948. 1) ,p.135- 136
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19480100-0135

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

に移し、更に建久二年三月燒失のため現在の地に本殿を移したのである。

社務所に請ぜられて、當社所藏の古文書類を見せて頂く。ここでも疎開中で、拜見した原本は澤山ではなかつたが、室町前後の社領關係の文書、其他有益なるものであつた。また「天正十九年五月十四日增田長盛」の署名のある、國寶「鶴岡八幡宮修理目論見繪圖」や有名な「鶴岡八幡宮社務職記錄」などを拜見することが出來た。

折から天氣もすつかり恢復し、氣持よい初夏の日が照り出して來た。境内には聯合國の將兵の姿も見える。かくて附近の鎌倉國寶館に入り、書畫、彫刻その他貴重なる陳列品を巡覽して、三時頃、同所にて解散した。

最後に戰爭後の整理其の他の繁務中、特に見學の便宜を與へて下さつた八幡宮、建長寺その他の皆樣に篤く御禮を申上げる次第である。

（森岡敬一郎記）

昭和廿一年度秋期

金澤文庫見學報告

昭和廿一年十月十七日神嘗祭の朝は天候に惠まれたが、品川驛頭ではうすら寒かつた。伊木先生外六名は八時湘南電車品川驛を出發、京濱間の工場地域を拔け清淨な空氣の金澤文庫驛に降りたのは九時五十分頃であつた。そこで一行に湘南方面からの參の途中、先生は文庫の由來等を話された。北條實時の別莊に建てられたもので鎌倉末、足利時代には相當數の書物を有したが後散佚して江戸期にはその多くが江戸城内に移され、後に紅葉山文庫となつた。其等が今は内閣文庫をはじめ、圖書寮、久原文庫等にも分藏されてゐる。なほ駿府政事錄や林羅山の丙辰紀行等を見れば當時の狀況が解ることなど說明せられる中に、稱名寺の赤門をくぐつた。本堂の横に萬里集九の移植したと傳へらるる古梅樹を眺め、『梅花無盡藏』の著者を偲んだ。又鐘樓の梵鐘の銘には『正安辛丑仲和九月大檀那入道正五位下行前越後守朝臣顯時　法名惠日』とあり今度の戰爭にも供出を免れた逸品である。

次いで金澤文庫寶物館を見學することになり、館員石原氏の說明を患はした。陳列品の主なるものは未だ疎開より歸らないとの事で、復製品及び模造品が多かつたが、金澤文庫の印、釋迦立像（半身裸七衣紋の線の飜波樣式に特徵あり。）僧形八幡神像、十二神將畫像、金澤文庫古圖等は我々の目を惹いた。又同氏は、陳列品解說を終ると、稱名寺の概略を話された。元享三年に本如房　加七堂の境内となし、結界に（梵字）阿字の池（今の山門の位置）をめぐらした。その頃は今の境内より數倍廣大で、現在の寶物館の地が實時の別莊であつた。又宗派は始めは西大寺末寺にて眞言律寺であつたと。陳列室の見學を終つて、史料調査室に移り、そこで石原氏は我等の求めに從つて快く史料を出して見せられた。その主なるものは次の樣なものであつた。

（A）本尊彌勒菩薩胎内發見品

（一）千體刷佛（雁皮紙版畫）　一枚

（二）叡山版經　一卷

（三）妙法華經（寫經）　一卷

（四）願文　一卷

署名に「平安女」とあるは實時夫人か

（五）婦人遺髮

（六）小舍利塔（木製）　一基

（七）筆及筆記具（鉛筆形木製）　二片

（八）稱名寺僧衆宛文書（弘安元年の記あり）

（九）其の他天正八年九月廿二日申亥の文書、後世追加として納入せしものか

（B）宋版大藏經

（C）兼好法師（三十四歲）筆消息、懸紙共　二通

（D）連歌集（用紙引合せ）

「點阿溪元弘三年十月廿三日夜云々」とあり中に「卜」とあるは占部兼好の頭文字ではなからうか。

（E）日蓮（十七歲）筆「聖院眞言血脈」　一綴

（F）手習覺往來（鎌倉時代）

（G）東鑑斷簡（鎌倉末期頃）

（H）今鏡斷簡（〃）　一冊

（I）假名具注曆

(J)眞言觀音圖像　一卷
(K)國寶、愛染明王（厨子共）
厨子內部及び扉に彩色あり。
臺座裏書、永仁五年二月廿七日金澤寺是作、大二左近道入道佳風、子息藤內府藤原秀吉
(L)開山審海三衣及銅鈸　銘「金澤審海」
(M)伊藤博文明治憲法資料

病中の前館長關靖氏わざ〳〵來館本章胎內發見の筆（稱名寺に保存）を持參して示された。かくして一同食事をつかひ、靜かな庭を望見すれば都塵を洗ひ落した氣分すが〳〵しく、暫し休憩の後、寶物館を出でて、顯時、貞顯の墓を弔ひ、實時の墓を遙拜し、更に文庫址を視て石原氏と別れ、金澤八景を見ながら八景驛に向ふ。廣重の畫いた武州金澤八景之圖とは凡そ山の形まで變化して、あちこちに工場の煙突が立ち、うち寄する波だけが青かつた。しかし潮風に吹かれつつ松風を聽けば、足をとゞめる所もないではなかつた。伊藤博文が憲法製作に日を費した夏島の名殘りを見やり、當時の秘話に耳を傾けつつ、八景驛に着く。ここでもとの軍港横須賀へと足を延ばし、幕末小栗上野介の建造にかかるドックを見、かつて軍國主義はなやかなりし頃の軍港とはうつて變り、いかめしくめぐらされてゐた塀も取拂はれ、こゝかしこには外國船が投錨し、岩壁では子供等が釣をするのを見ては、うたた急變せる姿に感慨深いものがあつた。汀に佇み暫し四周を眺めた後午後三時解散し、ここにこの有意義な見學を終つたが、回顧の夢はなほ鎌倉より現代へと七百年をかけめぐる。（**中村秀男記**）

鎌倉書房

——歷史關係圖書——

柳田國男著　**家閑談**
變革期の日本の直面する最大の問題の一たる「家」について、民俗學の父祖柳田先生が語るその變遷と傳統、日本社會究明の根本課題はこれだ。近々再版。

慶大教授　松本信廣著　**日本神話の研究**
日本神話の成立は、南東アジアの民俗的宗教的背景を措いては考へられない。本書はかかる觀點から豐玉姫傳說その他の日本神話を考察した。九十圓送十圓。

文學博士　橋本增吉著　**中國古代文化史研究一**
東洋史學の耆宿として、橋本先生の存在は世界的な重みを持つ。本書は有名な古田制考その他中國古代に關する論究を收めて學界に送るもの。五十圓送十圓。

八幡一郎著　**日本石器時代文化**
展望廣く視角新しき八幡氏の學風は世の齊しく認めるところ。本書は先史日本概說として他に著者を得がたき絕好の教科書、國民必讀の書だ。六十圓送十圓。